

1 会議議事録

会議名：第 7 回介護医療院プロジェクト会議

日時：2024 年 2 月 1 日（木） 16:00～17:00

場所：病院本館第 2 会議室

出席：土井 菊地 吉田 市村 中野 岩井 久枝 寺島 藤江 今井 村山 水野 磯岡

欠席：青木

◎菊地ケア部長挨拶

議題 I 型か II 型科の選択

（市村次長）

エスパーロとしては、II 型で途中から I 型にするよりも、最初から高い I 型が良いという意見でまとまった。I 型にする以上は酸素配管とその延長も含めて考えていく必要がある。また、サービスについては施設、短期入所、通所リハとあるが、短期入所は今は多少の少数をもって運営しているが稼働率は多くても 70%あれば良いほうで、介護医療院全体の稼働率を上げる事を優先することを考えると、短期入所はまたクレオや病院の地ケアでもカバーできることから、短期入所（ショートスティ）は行わない方向としたい。状況を見て、空床利用があれば行うこともあるかもしれないが予約を受けてまではしない。

（土井施設長）

利用者への高いサービスの追求、経営の両輪で成り立っている。経営のためには入居率を高めることに尽きる。介護医療院を契機に黒字化を目指してほしい。もちろん職員の皆さんの待遇・やりがいをもって働くことももう一つの軸である。

では I 型ということで、皆さんは、それで良いですか？

（市村次長）

すでに、全会一致で決定している。

議題 お風呂について（種類・改修）

（岩井課長）

お風呂については、どういった種類が必要か、どこを改築するかをまとめて後ほど案を出す予定。

（土井施設長）

大雑把なこういう方向がいいとかはあるのか？ミスト浴はどうか？

（岩井課長）

リクライニングも可能な、チェアバスを考えている。クレオさんの酒井医療の資料も確認しているが、ミスト浴はいまのところ考えていない。

（吉田事務長）

ミスト浴は温まり方は十分だが、お湯につかりたいという利用者さんの満足を得られるのか疑問とのことであった。

（今井）

クレオの現場では、ミスト浴よりもチェアバスのほうが良いと考えていると聞いている。

（土井施設長）

場所の問題や、仕事の手間も含めて検討してほしい。実際に試してみたらどうか？

(岩井課長)

見学や、体験も含め検討する。

議題 美化、改修、補助金について

(吉田事務長)

美化については介護医療院とは別の問題であり、業務にお任せしている。

(菊地ケア部長)

改修ということで進めるのであれば、先ほど市村次長もおっしゃっていたが、まずは中央配管を延ばしてもらう工事を急いだほうが良い。なぜならば介護医療院になるならない以前に、喀痰吸引や酸素の供給はこれから間違いなく増えてくるので、早い段階から着手をする必要がる。

(土井施設長)

業務に確認したところ、工事はそれほど難しくはない。途中まで配管は来ているので時間もそれほどはかからないと聞いている。

(菊地ケア部長)

では、もう取り掛かって良いか？よろしければ、具体的に進めたい。

(水野)

県に確認したところ、開設補助金で1床あたり90万円で8千万円相当になるが、出るかでないかはまだはっきりしていない。でる条件としては新設かあるいは内部で例えばベッド数を変えとか改修工事を行ったということだと出るかもしれないとの回答であった。これをすれば、補助金が出るというものは無いので。金額がいくら使ったか、病床数を変えればということではない。こういう工事を行いました、ではどうですか出してくれますかという感じになる。補助金があるという前提で動くのはちょっと難しい。補助金があってもなくてもやる。補助金が出るのであればやるものと分けたほうが良い。補助金が出る場合は、開設から6ヵ月前に対しておけるので、準備は今のうちにしておいたほうが良いが5月開設なので、補助金該当については11月から4月までにすることになる。

(菊地ケア部長)

6ヵ月前に着工日なのか？

(水野)

たぶん請求の日付や、終わった日付で良いかと思う。

(土井施設長)

その辺は補助金を絡めて整理しておいたほうが良い。同時に吸引管もセットで多床室に何個必要か？

(菊地ケア部長)

4床室に口が2つ、Y字管を繋げば酸素と吸引と両方使える。ベッド異動を要しないほうがよいので、全部に引いたほうが良い。その分2つでよい。

(中野)

急変したときに食堂にもあったほうが良い。今もそういうこともあり、ポータブルをもってきている。

(菊地ケア部長)

もう一つ必要なのは、非常電源。緊急事態に必要。

(土井施設長)

蓄電池も考えている。赤コンではなく、全部の通常の電源に通すことを考えている。今までは屋上で軽油で発

電していたが、蓄電池なら、少ない電気で PC などにも使える。設定はいろいろできると思う。

(菊地ケア部長)

もちろんそれが一番良いと思う。

(土井施設長)

非常時にどのくらい必要かを視野に入れて改築したい。協会等の BCP において設定した基準があると思う。

(菊地ケア部長)

それから、サービスステーションが狭すぎる。これだけの入所者を管理するにはいまのままだとミキシング台がなく、点滴が作れない。真ん中にある倉庫をぶち抜くことで場所を確保する必要がある。動線のための改築は必須と思われる。また、職員の休憩室も狭すぎて気の毒すぎる。

(水野)

補助金の要項に出る条件の具体的な記載はない。他施設の実績を聞いてみたい。医療的に必要な場所にするよう改築するのなら使えると思う。修繕は出ないが、開設準備については出る。

(土井施設長)

補助金の使えるもの、出る時期などを整理してほしい。行政も担当者で変わるので、密にしてほしい。

(吉田事務長)

使えそうなものは6ヵ月以内にまとめ、そうでないものは補助金が使えないので、整理する必要がある。仕切りなどは、今のままでも使えなくはないが 23 年たっているものなので購入したい。

議題 求人、病床数について

(菊地ケア部長)

求人については、90床か95床かで人数の配置は変わってくる。どちらにしても今よりも職員数はかなり必要になってくる。ナースの場合は、常勤の夜勤ができる人を 4 名、もしくは常勤の夜勤可3名＋夜勤 1 名が必要。介護士については今の3:1 から4:1 にはなるが、今でも足りていないのなかぎりぎり頑張ってくれているが、スタッフの増員は必要。夜の看護も介護も手厚くしていく必要がある。人員計画は私のほうで作る。

(土井施設長)

何床で行くかだが、基本的には現状で行きたい。なぜなら、5 人分の収入が減るので、枠を少なくするとまた利用者が減ってしまうのではないかと。介護医療院としての要件のスペースが足りないというなら検討する。介護医療院の要件には家族の為に何があればよいか。

(菊地ケア部長)

一番必要だと思っているのは、緩和ケアの家族の待機の場所だと考える。看取りを考えたときにどれだけご家族に満足のいく環境を整えられるかが大切。要件にはないが、プラスアルファのサービスになる。

(土井施設長)

談話室だけでよいのでは？ そのためにも倉庫が足りないのでは。ロックスは膨大なスペースはあるがどうか？ 畳のところにマットがあるが、マットは使うのか。

(岩井課長)

マットは使います。

(吉田事務長)

今考えているのは、畳のところを家族の待機スペースにするかなど。4階のところに、業務部のものがおいてあ

るのでそれを異動して欲しい。そういうところをきちんとすればもう少し空くかもしれない。

(土井理事長)

それは私から業務に言っておく。

(菊地ケア部長)

95床と90床を考えると、90床をいっぱいにするほうが人件費を抑えられる。それなら90床にするほうがよいのでは。ベッドは誰も入らなければ、0円で人件費がかかる。

(吉田事務長)

95床でもしかしたら満床になるかもしれないが、賭けのようなもの。90床にしていっぱいにする方が良い。

(土井理事長)

看取りの家族は、一緒に個室に入るので、別に部屋はいらないのでは。

(菊地ケア部長)

そうかもしれないが家族も疲れてしまうこともあるし、本人の意識が無くても、本人のいるところで話しやすい事もある。看取りの、面会の家族の為に細かい配慮ができるかどうかで選ばれるかどうかが決まる。

(水野)

I型と決まったので、もう少し細かく計算をしてみる。

(市村次長)

基本的に入れる側からすると90でも95でもある程度一緒。上限が決まっているのでそこまで入れるだけ。あとは人件費がどうかということのみ。エスパーロでは95%になったこともある。

(吉田事務長)

全体的に、余分なスペースが無さすぎだと思う。病院チックな建物になっている。食堂にソファなどを置くなど家族が過ごしやすいスペースを作るのも一案。

(土井施設長)

や施設を見学したところを見ると、デイの部屋には利用者はほとんどいなかった。介護度が高いと個室にいることが多いのでは。I型のイメージを持つことも必要。介護士のやりがいはいかが？

(岩井課長)

重い方が利用されるので、ベッドサイドのケアも増える。見学した施設では、ベッドサイドのレクリエーションに苦戦しているとも聞いた。今までとは変わるのでどうしたらよいか試行錯誤していく。

(土井理事長)

それらも含めて、病床数も、総合的に検討する。

議題 介護助手について（入浴専門分業など）

(土井施設長)

入浴分業についてはどうか？ クレオには非常勤で3人いるとのことだが、エスパーロにも、お風呂の専門の人に来てもらったほうが良いか？

(今井)

妻がクレオで入浴の介助として働いている。月曜日から土曜日までお風呂があり、3日で1サイクルとなる。

(菊地ケア部長)

介助だけをしてくれる方がいたほうが良いのか？

(藤江)

友達の施設には、食事介助も含め、たいていは介護助手はいると聞いている。

(吉田事務長)

前にエスパー口にも入浴補助専門の方は週4日でした。以前にその資料も渡しているが、今回の改定の中にも介護助手の話はあり、全老健のHPに細かく具体例もアップしているので、こういう業務に何人くらい必要か考えて欲しい。エスパー口だけではなく、法人全体で考えていくことが必要。創造会全体でそういう業種を作ってほしい。

人材確保の面で近所の元気な高齢者の方々に朝の時間帯の配膳などで働いてもらうことは意味がある。

(土井施設長)

社会貢献的にも進めたい。近所の方でやりたい人も多いのではないかな。

議題 我孫子市「第9期介護保険事業計画・第10次高齢者保険福祉計画(案)」 パプコメの実施 12/26～1/25
「第6回我孫子市介護保健市民会議」 11/16開催
※追加資料 計画(案)83ページから抜粋 (全文は別途)

8 第9期計画の施設等整備方針

(1) 広域型施設

介護老人保健施設からの転換を前提とした介護医療院について、1施設定員100名程度の施設整備を図ります。また、特定施設入居者生活（介護予防）介護（有料老人ホーム）については、1施設定員70名程度の整備を図ります。

施設種別	第8期までの 整備数	第9期計画施設整備数			第9期までの 整備数
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	
介護医療院	—	1施設 定員100名程度			1施設 定員100名程度
特定施設入居者生活 （介護予防）介護 （有料老人ホーム）	8施設 定員475名	1施設 定員70名程度			9施設 定員545名

(磯岡)

計画書には掲載されたが、令和12年度と22年度の数字が減になっていたのも、それは単なる間違いだと思うので直してもらうように申し伝えた。転換等の内容が掲載されていないので、公募になることもゼロではない。

(吉田事務長)

スケジュールだと9月になる。公募になったことを考え、ちゃんとした具体的な計画を作らないといけない。早めに準備しないと、のんきなことはしていられない。絵だけでもできてない。

(磯岡)

「第6回我孫子市介護保健市民会議」で今年委員になられた介護職だった田中信子さんという方が、介護医療院の開設について必要性を強く述べてくれていた。

(市村次長)

セントケア(東京)にいらした方では。協議会で一緒だったので。

◎吉田事務長挨拶 (エスパー口開設時から23年勤務) 3月1日異動

次回会議：3月7日(木) 16:00～17:00 病院本館2階会議室

会議の結果と、以下の目的を踏まえ、次回、検討した結果、経過を報告してください。

- ① 利用者への高いサービスの追求
- ② 経営（介護医療院を契機に黒字化を目指す）
- ③ 職員の待遇、やりがい（職場環境など）

今回の決定確認事項

1. 介護医療院はⅠ型で行う
2. 短期入所（ショートステイ）は基本行わない
3. 酸素吸引のための施設等を整備する

今後の確認リスト

1. 病床数の検討（代替のスペースの検討・経営状況の確認）
 - ・定員 90, 95 の試算、エスパーロの現状の経営状況
 - ・看取りのための家族の居場所、倉庫や、スペース間取りの整理
※業務部の物品の撤去は、すでに理事長から指示済みです。
2. 改修等で必要なものを具体的に精査し、内容・工期などを見積もる。
補助金がなくともやるもの、補助金が出るのであればやるものとを仕分ける。
 - ・酸素吸引のための施設
 - ・スタッフステーションの拡張
 - ・非常電源の検討
 - ・お風呂の種類、改修 など
3. 人員計画（菊地看護ケア部長）
 - ・夜勤等も含めた不足分の求人など
 - ・浴室・食事の介助など介護助手の必要性（介護科）
4. 補助金や公募のための準備（水野、磯岡）
5. Ⅰ型になることで変わるもの等の研究（例：介護やレク）